



2003.3.6

第120号

編集・発行  
 福島県教育庁  
 会津教育事務所  
 峯 島 和 彦

編集協力  
 沼田協議会  
 沼田中学校  
 沼田小学校  
 沼田中学校  
 沼田小学校



# 「全て正解」

福島県教育庁  
会津教育事務所業務次長

栗村謙一

自分の身体が思うように動かない  
 くなった者の趣味は、テレビでス  
 ポーツ観戦をすることでありませ  
 う。そんな私にとって年末は大変楽  
 しい時であり、サッカーの福島東  
 高校の活躍は新しい年を迎えた平  
 成十五年が何かすばらしい年にな  
 りそうな、夢と希望が持てるよう  
 なうれい事でした。

本年度の高校サッカーでこんな  
 事があったそうです。  
 岡山県での水島工業対作陽の決  
 勝戦は延長戦までもつれ作陽の選  
 手のシュートはVゴールと思われ  
 ましたが、審判は認めず、結局は  
 PK戦で水島工業が全国大会への  
 切符を手に入りました。

しかし、その後の作陽からの抗  
 議等もあり、ビデオで検証した結  
 果、日本サッカー協会審判委員会

は、その判定の誤審を認めました。  
 新聞の報道で誤審により全国大  
 会出場を阻まれた学校等の気持ち  
 だけを心配していましたが、一月  
 五日付けの朝日新聞「ぼくは出な  
 いエースの決断」で、出場した水  
 島工業の苦悩が報道されました。  
 審判の誤審なら「試合は負け。  
 負けたのに出場するのはおかしい。」  
 と水島工業のエースは全国大会に  
 出場しませんでした。

出場しないと決めたエース、説  
 得にあたった選手・親・監督・校  
 長の苦悩、そして、エース抜きで  
 も出場した選手の心は、本人でな  
 ければわかりません。もし自分が  
 選手・親・監督・校長だったらど  
 んな結論を出したのだろうかとか  
 考えました。しかし、明確な自分の  
 答えを引き出すことはできません  
 でした。

振り返ってみれば、今まで自分  
 は勝った・負けた、正解・不正解

と白黒だけをはっきり求めてばか  
 りいなかっただろうか。世の中  
 ではその時は負けたが、その中か  
 ら大きなものを得て成功に結びつ  
 けたり、不正解や失敗から本当の  
 姿が見えて来たりすることがたく  
 さんあったはず。そうだとし  
 たならば、表面的な結果だけでなく  
 裏側も見て、一人一人が自分で考  
 え、そこから出した結論には自分  
 と同じでないとか、自分に合わな  
 いという理由だけで間違いとかな  
 正解と決めつけるのではなく、食  
 でもファーストフードからスロー  
 フードに変わろうとするように、  
 もっとゆっくり広い心で見守り、  
 一つの考えや物事にこだわること  
 なくもっとファジー的な「全てが  
 正解」と言える心を持つ親・教師  
 でありたいと思うこのごろであり  
 ます。

## 各種受賞紹介

(敬称省略)

### ○文部科学大臣表彰

・教育者表彰

会津若松市立鶴城小学校校長  
齋藤就治

### ○優良PTA

会津本郷町立本郷幼稚園・保育所保護者会  
柳津町立西山小学校父母と教師の会  
優良公民館

### ○優良公民館

三島町公民館

### ○体育功労者

福島県なぎなた連盟理事長  
山本和子

### ○学校保健及び学校安全表彰

(学校保健関係)  
会津若松市立東山小学校学校医  
前田耕一

(学校安全・学校)  
会津若松市立大戸小学校

### ○県文化功労賞

(芸術部門) 角田弘司

### ○県教育委員会表彰

・地方教育行政功労者  
元喜多方市教育委員会委員長  
羽曾部 實

・学校教育功労者  
会津若松市立鶴城小学校校長  
齋藤就治

会津若松市立城西小学校校長  
遠藤英機

・社会教育功績顕著な団体・施設  
河東町青年会

・保健体育功労者

元・福島県薬剤師会理事  
佐藤知子

県テニス協会会長  
高谷雄三

北会津村立北会津中学校等学校医  
羽金與平

・保健体育功績顕著な団体・施設  
日曜ソフトテニスクラブ

・き地教育功績顕著な団体・施設  
会津高田町立東尾岐小学校

○県学校給食優良団体・功労者表彰

・学校給食優良団体  
北会津村学校給食センター

・学校給食功労者  
会津若松市立城西小学校校長主任栄養技師  
野中憲子

○県学校歯科保健優良校表彰

・最優秀賞  
河東町立河東第三小学校

・優秀賞  
山都町立山都第二小学校  
高郷村立高郷中学校  
三島町立三島小学校

○教職員研究論文入賞者

・特選  
会津若松市立一箕小学校

○第五十三回県学校関係緑化

コンクール表彰  
(学校環境緑化の部) 小学校  
知事賞 福島県民友新聞社社長賞  
北会津村立川南小学校  
福島県総合緑化センター理事長賞  
熱塩加納村立加納小学校  
昭和村立昭和小学校

# 育て！かがくっ子

会津本郷町立本郷第二小学校

本校では、「理科好きな子ども」を育てるために、理科的環境の整備を基盤として、科学的な活動・思考の日常化を図りながら、理科の授業改善に取り組んでいる。

## 特色ある学校紹介

- 手作り自然科学館 子どもたちの科学に対する関心・意欲を高めるために、手作り学校内外の環境を理科的に整備している。



○ 地域発見 地域の自然発見地図は、子どもたちの自然に対する発見を大切にしながら、さらに科学的活動を広げている。

○ わくわく理科 授業

今までに、植物・樹木オリエンテーリングコース、メダカ観察池、アクアワールド二小、科学のふみち、からくり実験室等が完成した。子どもたちが楽しみながら科学

## かがくっ子宣言

- 1 自然や科学の不思議を自分で見つけます。
- 2 不思議に思ったことを自分の力で調べます。
- 3 自然や科学を利用して遊びます。
- 4 自然を大切に守ります。

の不思議さ、おもしろさを体感できる場が広がってきている。

○ 理科の日常化

授業においては、子どもの思いや願いを生かした学習形態の工夫を中心に授業の充実に努めている。そのために、地域素材を生かしての事例提示、見通しがしっかりと持てる場の設定、実感を伴うものづくり等に視点を当て研究を推進してきた。

子どもたちは、事象に対して主体的に関わり、学習意欲もさらに高まってきた。「教師も理科を好きに」を合言葉に、全職員心を一つにして、これからも実践を進めていきたい。

## 青少年の体験活動・ボランティア活動推進のために

### 生涯学習だより

会津教育事務所の地域センターでは、推進協議会や域内社会教育行政担当事務員協議会、コーデイネーター学習会を通して、センター事業について協議を深めてきました。

また、二名のコーデイネーターを中心に、学校訪問や公民館訪問の機会に事業の趣旨説明や体験活動等推

進委員会の設置、主任の先生の配置、年間指導計画の作成等についてお願いを申し上げてきました。

現在までに、すべての学校に体験活動等推進委員会が立ち上がり、主任の先生を決めていただきました。

市町村関係では、高郷村に支援センターが立ち上がりました。平成十五年度には域内の半数以上の市町村に支援センターが設置される予定で、現在準備を進めています。

一方、青少年のよりよい体験活動・ボランティア活動のためにご協力いただけるボランティアの方々登録状況は

## 「日常の取り組み」

会津教育事務所指導主事 (高校担当) 源 後 正 能

四年前、故あって十五年ぶりに実家に戻った。当時小学校六年生の娘は卒業までの半年間はそれまでの小学校へ通い、中学校からは学区の異なる地元の中へ行くことになった。

私の母校でもあるその中学校は県内有数のマンモス校で、「荒れている」という評判は耳にしていた。遠くても今までの学区の中学校への入学を勧められる友人もいて、「土着は地元根をおろしてこそ」とか「悪を身近に知らなければ善は語れない」

などと言って退けてはいたものの、「荒れた学校」という言葉に少なからず不安を感じていた。娘に関する一切を妻に任せていた私は、これを機会に入学者説明会や入学式以後も授業参観などできるだけ学校に出向くようにした。

確かに、学校ではだらしない服装の生徒や「荒れた」と察することができ形跡を目にすることはあったが、娘からは毎日の楽しい出来事が食卓の話となり、担任の先生が出すクラス通信やB版表裏にびっしり手書きで毎週発行される校長先生の学

校通信により、学校の様子が手に取るように理解でき、当初の不安はいつしか全く消えていた。同時に、教育関係者でありながら現場の先生方の努力に思いを致さず、「荒れている」という風評に不安を抱いた自分の不徳を恥じた。何よりも、学校への信頼は具体的に地道な日常の取り組みによってのみ獲得できることを思い知らされた。

一部の不祥事で教育関係者全体が問題とされる昨今であるが、教員一人ひとりの日常活動が教育の原点であることを肝に銘じて単身赴任の会津の教育に携わりたい。

# 陣が峯城跡の発掘成果

## 会津坂下町教育委員会

陣が峯城跡は、会津坂下町北部にある宇内地区に所在します。この南側には旧越後街道があり、慶長の大地震まで主要幹線として使用されてきました。

## 地域に学ぶ

本城跡は、すでに江戸時代から二重堀が巡る立派な城跡として古文書に記されていきました。これを後世に残すべく、平成一四年から三ヶ年の計画で確認調査を実施しました。

この結果、城跡は堀跡を含めると約四万平方メートルの規模で、この内部から主殿と考えられる大型の掘立柱建物跡が検出されました。ここからは多量の中国製白磁



と国産陶器、和鏡、鍾（おもり）、鉄製馬具などが出土しました。また、厨房跡と考えられる焼失建物跡も検出され、ここからは焼けた柱や炭化した多量の米、豆、おにぎり、木製の枕が出土しました。

これらの出土遺物から、本城跡は十二世紀前半に構築され、多量の中国製白磁や金銀などを量る鍾を所持することから、かなりの権力者がここに暮らしていたと考えられました。また、杉地区にある宇治平等院に類似した薬王寺遺跡もこの権力者が建立したと想定され、会津坂下町を中心とする十二世紀の蜷川荘は、奥州平泉同様に京風文化を享受できる素地が備わっていたことが明らかとなりました。

# 居場所を失ったA男

## 学校教育相談員 佐藤輝雄

## 学校教育相談

大多数の生徒は「朝起きて食事をし、登校する」を何年も繰り返している。中三のA男はそれが十分でない。友人も少なく、存在感が薄い。級友と交わりたくない。学力不振からやる気が不足し、授業中は居眠りに近い。しかし、サッカーの話になると目が醒めてくる。A男は、理由をつけては行きたくないと言え、登校しづりを続けた。一年生時は欠席が少

なく、二年生で三学期になると無断欠席、早退が目立つようになった。三年生では不登校状態にある。学級担任は繰り返し家庭訪問を行った。その都度登校はしたが、すぐ早退してしまう。授業には出ていないのに放課後の部活動には顔を出した。大会終了後、A男に限り参加を認めたが、A男に限り参加を認めたことにはした。担任はチャンスを見てはA男との話し合いを続けた。少しずつ関係改善につながり、わからないなりに授業に加わるようになった。A男への指導の方向性につ

○ いての話し合いをもった。  
○ A男は、授業には興味を示さないが、サッカーという夢中になれるものがある。ので無気力な生徒ではない。  
○ 学級の中で所属感を抱けるよう配慮する。学業不振でも適応している生徒もいる。居場所があるかどうかによる。家庭でも所属感が弱い。  
○ A男とつきあう気持ちを持ち、大切にし、信頼関係を高めるよう、やり遂げたことは失敗も含めてほめてやる。  
○ 不安傾向や欲求不満を抱いている場合が多いので、話をよく聞いてやること。等を確認した。  
○ 成果が見えつつあるようだ。

## 私の実践

### 道徳教育における試み 教務主任という立場から

猪苗代町立長瀬小学校

新井田 克 生

道徳教育においては、クラスにかかわりのある他の教職員との協力的指導が求められています。ここでいう協力的指導とは、他の教職員が道徳の時間において、部分的に参加・協力をしながら、学級担任の手助けを行うことです。当然のことながら、道徳の時間においては中心的な役割を果たすのは、学級担任であるべ

きだと考えています。しかし、私のような教務主任という立場でも、本来あるべき他の教職員との協力的指導を次のような方法で工夫・改善することにより、道徳の時間において中心的な役割を果たすことは十分に可能ではないかと考えたのが研究をはじめた動機でした。そこで取り組んだのが、①ある特定の価値項目を取り上げて中心的な役割を果たす。②子どもの実態と学級の雰囲気等の確にとらえる。③総合单元的な道徳学習に位置付けた活動を学級担任とのT Tで指導する。④子どもとの評価を学級担任と共同で行う。

という四つの方法でした。子どもによさや変容をとらえるために、道徳性の実態把握（事前のアンケート実施など）と評価（道徳の時間と関連をもたせた活動における自己評価や学級担任との共同評価など）に力を入れて取り組んできたことは、担任外として授業にかかわることのよさを発揮する有効な手だてだったと感じています。このような実践が、クラスにかかわりのある他の教職員の道徳教育への参加という視野を広げ、道徳教育における新たな試みになれば、と思います。

# 私の抱負

親しまれ恐れられる先生に

河東町立河東中学校

校長 川島 宏



これは、教育実習の際に担当教官からいただいた教師としての心構えであり、

二十数年経った今でも私の目指す教師像である。校長も日々の学校生活の中で、登校途中から部活動を終了して下校するまで、意外と多くの場面で生徒と接する機会があり、「苦勞さん・ハイがんば・ありがとう」等、自然に言葉かけをしたり、時には物事の道理を説論したりすることもある。

教職員にも同様で、「健康で明るく楽しく」そして、特に生徒指導は「親身になって」を合い言葉に、一日の大半を過ごす学校をより快適な空間にするべく、全教職員の見聞統一を図り、共通の目標に向かって取り組んでいる今日この頃である。

私のモットー

柳津町立西山中学校

教頭 今井 仁



四月、新任教頭として張り切っではみたものの、右往左往する毎日でした。職責

の重さを実感する前に、またもや自分の非力さを思い知った次第です。

うまく事が運ばない時は、大抵相手に多くを求めていたり、自分を理解してもらおうといているのです。そのために相手の言動にイライラしたり、不満を持ったりしてしまうのです。近ごろは「理解されるよりは理解すること、求めるよりは与えること」とをモットーとし、「相手が望んでいるのは何か、自分にできることは何か」を考えるようにしています。

少しは賢くなったでしょうか。大した失敗もせず？教頭一年生を修了できそうです。

奥川小だからできること

西会津町立奥川小学校

教諭 林 美里



自分の視野を広げてからと思いい、青年海外協力隊に参加してから、念願の教師になった。初めての小学校。

毎日が未知との遭遇で、驚きと喜びの日々を送っている。そして、子どもたちを前に「教育は人なり」を実感している。教師が一生懸命なときは子どもも精一杯に取り組む。教師が手を抜けば子どもにそれが伝わる。

学校と地域が丸となり取り組んだ四苦八苦(宿泊)活動や、世界の国々を調べた総合的な学習で、子どもたちの目の輝きを見たとき、回り道も無駄ではなかったと感じた。これからは子どもと教師、地域が一体となれる奥川小で日々の実践を充実させていきたい。

## 心に残る人々



町史員になって、四十年の歳月が過ぎようとしているが、忘れられないことが、

が、何時も書くときになると思い出される。当時は、複写機などがなく、戸籍担当者になると、謄抄本の請求があれば、書かなければ交付することが出来ず、毎日く

三島町教育委員会教育長

星 孝雄

書いていた。ところが相手に読んでもらえるような字が書けず、また、文書を作成し決裁に迴しても、上司の判が貰えず、また書き直しと言ったことが、多々あり悩んでいたとき、上司のSさんから、このような指導をいただいた。「字は人を作る。下手でもよいから楷書で丁寧に書きなさい」と。それから、暇な時間があれば、原稿

用紙に鉛筆、ボールペン、万年筆、赤鉛筆で・・・練習。書かなければ自分の字「字」が無くなくなっていく。Sさんの言葉を思い出して、書き続けている。いまだこれが自分の「字」であると自信を持つては言えないが、指導されたことが今にあることは間違いない。そのような意味でも、Sさんの言葉は忘れることが出来ない。何時か自分の「字」にすべく心掛けて書いている。Sさんの言葉に感謝である。

## 作品と指導

工作



すころくランドで遊ぼう

高郷村立高郷第一小学校

四年 和田 健人

自分だけのすころくランドのテーマを「宇宙」にした健人くん。あふれ出るイメージを次々と形にしていた。

ふと気がつくと、箱をつなげてロケットでとび立っていた。「火星と地球」の完成。

重ねた色づかいや立体物で、各々の特徴をうまく表現している。友達と遊んで楽しんだ。

指導者 関本 洋子

## 希望

磐梯町立磐梯第二小学校

六年 加藤 亜弥

# 希望

六年 加藤 亜弥

既習事項を生かして、組み立てや字形を整えて書く単元であるので、中心線のある試し書きとお手本を見比べさせ、自己課題について練習させた。

「希」の中心と払いの方向を課題にしていたので、竹ひごを使って、中心を気付かせ字形が整うよう指導した。

指導者 目黒 智子

## 家のインコ

湯川村立湯川中学校

一年 二瓶 あゆみ

感動をテーマとし、自由に描かせた。思い出の強い事柄はもちろん、ささいな日常の静かな印象にも目を向けるよう指導した。

あゆみさんの作品は、繊細な感動を丁寧に描き出している。インコの愛らしい様子を描いたこの作品は、見る人に安らぎを与えるようだ。

指導者 梅津 秀行

絵

